

琵琶湖部会検討会 (2005.5.2, 琵琶湖研究所)

水位操作WGの設置について意見交換

(参加者：西野委員，嘉田委員，江頭委員，河川管理者，庶務)

1. 設置の必要性

琵琶湖淀川流域の治水・利水安全度を一定のレベルに保ちつつ、琵琶湖の環境および下流域の河川環境の保全・再生のための水位操作のあり方を探る。

2. メンバーの構成と期間

琵琶湖の生態系 # 治水・利水分野 # 河川・湖沼および流域の物理分野

社会環境・政策分野など

- ・メンバーは、5～6人程度が適当
- ・5回程度の会合で集中的に議論する。期間は、半年か一年程度か

3. 検討課題

- ・対象とする領域：主として琵琶湖およびその下流の三川合流点付近あたりまでを対象とするが、淀川大堰の水位操作も視野に入れておくことが必要。
- ・既存資料・解析資料の学習・復習（前委員会の水位操作WGで問題になった事柄の整理も行う）
- ・意見書の論点整理と内容の詰め（西野委員のメモ参照）
- ・意見書に対する河川管理者の質問
- ・水位操作実現に向けての取り組み

4. 運営方法

- ・公開を原則，メンバー以外の委員は自由参加
- ・河川管理者は，特別な場合を除き，参加して情報，各種資料の提供を行う。
- ・必要に応じて委員以外の識者を招聘して，学習し，また意見を伺う。

5. その他

- ・意見書の内容に対する追加事項等，河川管理者に対する資料提供の要望など。
水位操作と治水，水位操作と環境，環境用水（維持用水）の考え方。河川の流れを視覚的に理解できるような画像など。これらを検討する上での資料整理の方法など。意見交換を行った。
- ・前委員会の水位操作WGで問題になった事柄の検討結果がどのようになったのか，また，内容的には重要な事柄があったと思われる。
- ・これからの調査解析項目についても意見が出たが，細部については，WGの設置が認められれば，初回あるいは2回目のWGで検討する。

(以上 江頭記)